

ト同ジ、至テ長シ、手ハ膝ヨリ下ル、形ハ丸クシテ小ク、青黒シテ黄ヲ帶ル、指モ人ノ如ニシテ短シ、爪ハ至テ長シ、指四ツ宛アリ、手足ニモ水カキアリ、手足ヲ縮ルト甲ノ内ニ入ル、龜ノ如シ、伸ル下、肘膝トモニ曲ル、全體甚ダ腥臭アリテ、チバルモノ也、故ニトラマヘ悪シ、是ハヘクツカヅララ手ニ卷トラヘル、又相撲ヲ取ルモ勝ト云傳フ、

〔善庵隨筆〕水中にて人を捕り殺すもの三つあり、一は河童、

或は河太郎と云ふ、貝原翁の大和本草に、本草綱目、溪鬼蟲附録の水虎に充つ、通雅に、水虎即水唐也、鼻厭其陰也、水經注曰、汚水逕黎邱故城、又南與疎水合、疎水出中蘆縣西南、東流至卽縣北界、東入汚水、謂疎口也、水中有物、如三四歲小兒、鱗甲如鮫魚、射之不可入、七八月中、好在積中、自曝膝頭、似虎掌爪、常沒水中、出膝頭、小兒不知、欲取弄戲、便殺人、有生得者、摘其鼻厭、可以小便、名爲水唐者也、後漢郡國志注、引盛氏荊州記云、生得者、摘其鼻厭、可少小便、名爲水蘆、十道志引襄沔記云、或有生得者、摘其鼻、可小便之、名曰水虎、孫汝澄云、鼻厭者、水虎之勢也、可爲媚藥、善使內也、鼻厭與鼻相訛、物類相感志訛爲水唐、而疎水作疎水とあれば、河童の水虎たる知るべし、然し水唐のこと、僅に此に出づるのみにて、他書に所見なし、西土には水虎の害、至りて罕なる様に思はる、○中略

今この三屍○河童、○水蛇を檢視するに、河童に捕られたるは、口を開きて笑ふが如く、水蛇は齒を喰ひし、ばり、向ふ齒二枚かけ墜ち、鼈は脇腹章門邊に、爪を入れし痕ありて死す、これを以て分別すべし、何れも肛門は開く、世人肛門より入りて、臟腑を食ふと云ふは非也、すべて溺死は、肛門開くものなり、何となれば、死する時口より押し入る水、肛門より出づる故に、肛門爛開せざることを得ず、

〔駿國雜誌 二十五〕河童

傳云、庵原郡巴河にあり、里人號て河童カッパと稱す、其形五六歳の小兒の如く、總身生臭く滑りて鯰の